

政府の杜撰な統計調査が問題となっている。不備が発覚した統計は国民経済の発展と国民生活の向上に寄与する「基幹統計」に指定されているものであるから事態は深刻である。しかし、政治も行政も、さらには国民も統計の重要な役割を正確に理解していない様子である。統計は数字の羅列ではなく、国家の将来を左右する資源と理解する必要がある。

一七世紀のイギリスで活躍したウィリアム・ペティという人物がいる。学者、医師、軍人として活躍しただけではなく「統計の始祖」ともされている。死後に出版された『政治算術』で、ペティは統計を駆使し、社会は時代とともに就業人口の中心が一次産業から二次産業、そして三次産業へ移行していくことを解明した。

当時、欧州で競争していたイギリス、フランス、オランダを比較し、人口最小のオランダの所得が最大で、人口最大のフランスの所得が最小である原因を究明した。結論は農業中心のフランスと商業中心のオランダの差異が原因と分析し、イギリスは重商主義に転換すべきと提言した。大英帝国は統計が出現させてことになる。

もう一人、統計分野で活躍したイギリス女性が存在する。クリミア戦争の後方基地の病院で看護に従事したフロレンス・ナイチンゲールである。多数の兵士が院内で死亡するが、それが戦場での負傷が原因ではなく、最悪の衛生状態の院内での細菌感染で死亡する兵士が多数であることをナイチンゲールは調査で明確にした。

ナイチンゲールの調査結果が本国に送付され、軍部が現地の実態を調査したところ、報告が正確であることが判明し、病院の衛生状態を改善した結果、四ヶ月間で感染症死亡率は四二%から五%に劇的に低下した。帰国した彼女が詳細な統計資料を作成して報告した結果、病院の改革だけではなく陸軍全体の改革をもたらした。

この二例は正確な統計資料が国家や軍隊の発展に貢献した事例であるが、間違った統計資料が国家を衰退させた事例も数多く存在する。一九九一年末にソビエトが崩壊する。一因はアメリカとの軍拡競争に多額の予算を注入した財政破綻が原因とされるが、その背後には意図して水増しされた経済統計が影響しているとされている。

二〇一〇年代にギリシャが財政危機に直面するが、そこまで悪化した一因は経済統計が意図して隠蔽されていたこととされる。政府は財政赤字を国内総生産比四%と発表していたが、実際は一三%であり、それが公表された結果、国債の格付けが低下して暴落し、世界各国の株価に影響するほどの経済危機が発生した。

現在、中国の経済の停滞が話題になっている。主要な原因は米中貿易戦争とされるが、政府の政策を正当とするために中国の経済統計が意図して過大に修正され、実態と乖離していることの影響という推測もある。もしそうだとすれば、正確な統計数字が暴露されたとき、ソビエトやギリシャの再現にならない保証はない。

日本で問題となっている毎月勤労統計が全数調査ではなく一部抽出調査であったことは統計数字に重大な影響はないという意見もあるし、実体経済に影響しないという見解もある。しかし、そのような過失を看過している国家だという評判が世界に流布すれば、日本への投資に影響しないという保証もない。徹底した解明と再発防止を世界に証明する必要がある。